

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4677600126		
法人名	社会福祉法人 誠心会		
事業所名	グループホーム南松園		
所在地	鹿児島県肝属郡錦江町田代川原430-1		
自己評価作成日	平成22年5月8日	評価結果町受理日	平成22年10月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaken-shakyo.jp/kohyo
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島		
所在地	鹿児島市真砂町34番1号 南光ビル303号		
訪問調査日	平成22年5月26日	評価確定日	平成22年6月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様が、人らしく・余裕を持って毎日が生き生きとした生活が送れるようさりげなくサポートして行く事。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

大隅半島南部の美しい自然環境の中、地域医療・介護の中心的な役割を担う医療機関や特別養護老人ホームに併設して建てられたホームである。
日常的に地域の人々や特養のデイサービス利用者、および医療機関の受診者との交流が行われている。また、災害時の自動通報先に近隣の住民が登録されているなど、地域と一体となった協力体制が築かれている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

グループホーム 南松園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念 4677600126					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常に利用者様側の立場になって、介助や行動を起こし、行事等も意見を取り入れ、又、地域の方々ともお茶を飲んだり、語らいの場を設けたりしている。	理念を目に入る位置へ掲示するとともに、職員会議や申し送りの場面で振り返りがなされている。近隣住民を含めた地域交流にも、日々努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の保育園や幼稚園の運動会見学に出かけたり、また、近隣の方々に訪問してもらって一緒にお茶を飲んだりするなど、地元の人々との交流に努めている。	日頃から近隣住民と行き来ができる関係作りを行いながら、入居者の出身集落の集いにも参加するなど、これまでの地域との繋がりを継続できるように支援している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町の福祉センターでの集まりに出かけて話をしたり聞いたり、併設のデイサービスセンターへ出かけて利用者や話しなど行っている。又、近所の独居も方を夕食へ招待したりしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者のご家族や近隣住民・行政・警察・消防の方々の参加を得ながら、ホームの状況を報告し、質問があれば詳細を説明するなど、サービス向上に活かせるよう取り組んでいる。	運営推進会議は2ヶ月に1回定期的開催され、現状報告や運営に関する話し合いが行われている。メンバーの中に、警察や消防関係者等を加える工夫もなされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町の担当者への質問や相談をしたり、ホームの状況報告を行うと共に、時々ホームへも立ち寄って頂き利用者様の生活ぶりを見学してもらうなど交流を図っている。	町の担当者とは、運営推進会議以外にもホームへ立ち寄ってもらえる関係ができている。入居者の暮らしぶりやこれまでの住まいについて、相談を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員研修などでも身体拘束についての話を上げたり、研修などへの参加も行っている。又、日中ホーム全体オープンにしてある。	身体拘束についてのマニュアルを整備し、ホーム内の勉強会を行っている。開設以来、身体拘束を行わないケアを実践しており、玄関の鍵についても日中施錠はせず、自由な暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待等については職員会で話し合いを設け、又、日頃より十分な注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事例が無くあまり理解されていない、今後話し合いを設けたり、研修等の参加も検討して行きたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書・契約書を、利用者様・ご家族の前で説明し、十分納得して頂いた上で契約を結んでいる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設けて、不満・苦情等があれば即座に対応するようにしている。	ホーム内に意見箱を設置したり、面会の際には、ご家族との会話を通して要望や意見をうかがうようにしている。運営推進会議においては、入居者およびご家族代表から意見をもらい、運営に反映させるように取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会において毎回職員の意見・要望など意見交換を行っている。又、申し送りノートを利用し、何か意見・気付いた事があれば記載してもらっている。	職員会議が月1回定期的に行われており、管理者は、改善点について積極的に職員へ問いかけている。日々の申し送りの際にも、気づいた点を話し合っている。	入居者と職員との馴染みの関係を重視し、現場の状況を把握した上で職員の異動や配置、勤務体制を検討していくことが望ましい。やむを得ず職員が交代する場合は、入居者へのダメージを最小に抑えるための工夫が求められる。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則の作成、又、研修会等へ参加させたり、年1回の健康診断など実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員会での研修報告や年6回の法人内全体研修へ参加したり、各種研修等へも随時参加させている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	中々交流がうまく出来ていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用申し込みや相談来られた際は親身に話をし、また状況に応じて訪問したりしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用申し込みや相談来られた際は親身に話をし、また状況に応じて訪問したりしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	週に1回、特別養護老人ホーム・デイサービスセンター・居宅介護支援事業所等の担当者と各事業所連絡協議会を開催し参加している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	1日の中で会話の時間を設け、利用者様が主役になり昔話や方言など教わったり、畑での野菜作りでは指導を頂いたりしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	誕生会や行事等への参加など願っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの理髪店・美容室を利用したり、時々自宅周辺のドライブへも出かけている。	デイサービスや協力医療機関で馴染みの友人と談笑したり、出身集落の集いの場へ出向くなど、馴染みの場所へ行きたいという希望に沿えるように日程を調整して支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別に話をしたり、聞いたり、又食事の席替えなども行ったり、利用者様同士の和も保たれるよう努めている。時々利用者様だけの話し合いもやっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特養南松園へ入居された方の顔見に時々行ったり、入院の際はお見舞いへ出かけたりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で声かけをし、把握に努めている。	入居者の思いや意向については、職員の関わりの中で気づいたことを、記録物や申し送りを通して共有しながら、本人本位のケアに努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	訪問時に話を聞いたり、家族との連携も密に取っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の内で自由な時間を設けたり、話をして把握するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の状態・様子等を家族へ連絡しているの で、その中より利用者様・ご家族の意見を取り入れ、職員間で良く検討し計画を作成している。	入居者およびご家族、職員からの意見を取り入れて介護計画が作成され、6ヶ月毎に見直しが行われている。	入居者およびご家族、並びに職員が介護計画を共有できるように、計画の原案を基に話し合いが行われることが望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録や健康チェック等を作成しており、それらを下に随時話し合いを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の訴えや利用者様の状況に応じて病院などへの受診を支援したり、特養入所者やショート利用者・デイサービス利用者等への面会なども行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員や警察・消防といった方々の訪問や話し合いなども支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関への受診や家族の承諾を頂いて定期的な訪問診療や訪問リハ等を受けている。	入居者およびご家族が納得された上でかかりつけ医が決められており、訪問診療が定期的の実施され、情報交換が密に行われている。	グループホームの特性を考慮し、認知症に関する専門医への受診機会を確保することが望まれる。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問診療の看護師と連携を取り合っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	地域医療室、医療相談係との連携を取っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に向けて、かかりつけ医や本人・家族、併設事業所の職員などとも話し合いを設けている。	事業所では対応でき得ることに理解をもらいながら、入居者およびご家族、並びにかかりつけ医と重度化へ向けた話し合いが行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当の仕方についての話し合いや、看護師への緊急連絡も取れるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の方も参加して頂いての、昼間・夜間を設定しての避難訓練や、消防署立会の下に火災訓練等を行っている。	災害に対するマニュアルを整備し、近隣住民の方も参加の上で、避難訓練が実施されている。自動通報システムには、消防関係に加えて近隣住民も登録され、迅速な対応が行われる仕組みとなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念にも掲げてあるように、職員一人一人が気をつけて対応するように心がけている。	入居者が不快な思いをされないように、声かけや言葉使いに留意している。入浴や排泄といった場面においては、羞恥心に十分配慮したケアを心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	行事・ドライブ等は利用者様に決めて頂いたり、班長を決めて利用者様同士での話し合いの場も設けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れは計画しているが、利用者様の体調や状況に合わせて変更している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の洋服は本人に選んでもらったり、年数回、洋服などの買い物へも出かけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の好き嫌いを把握し、一緒にメニューを決めたり、買出しへ出かけている。	食事の準備や後片付けには、入居者一人ひとりの力量に合わせて参加されている。入居者と職員と一緒に同じテーブルを囲み、同じものを食べて談笑しながら楽しく過ごしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事を一緒に摂りながら観察している、水分に関しては毎食後と10時・3時のおやつの際の時間に必ず摂るようにして記録へ残している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後のハミガキの声かけ、就寝前には入れ歯の洗浄を利用者様と一緒にやっている。又、必要に応じてタフデントなども使用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ誘導や声かけを徹底し、出来るだけトイレにて排泄が出来るよう支援している。	入居者の状態に合わせて、排泄チェック表を活用しながら排泄回数や時間帯の把握に努め、できるだけトイレでの排泄ができるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックなども行っており、毎日の適度の運動と水分補給に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者様と話し合いをし入浴日は決めてはありますが利用者様の体調により毎日入浴できる体制はとっている。	毎日でも入浴できる体制を整え、週2回以上は入浴して頂くように努めている。当日の入浴の順番を明示して、入居者に混乱や不満が出ないように配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本的な一日の流れは計画しているが、利用者様の体調や状況に合わせて変更している。別に消灯時間も決めずに好きな時間に、体調に合わせて休めるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は全てホームにて管理しており、個人の記録へ薬情を添付し各職員が把握出来るようにしている。又、薬剤師の指導も受けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	係りを設けて出来る方には色々な作業をして頂いたり、又時々気分転換にドライブ等へも出かけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日日課の散歩や、全員参加でのお弁当持参の遠足や、外食を取り入れたドライブ。又、時々自宅での外泊等も出来るよう支援している。	散歩や買い物など、日々出かける機会をつくり、車椅子や重度の方も戸外へ出かけられるように支援している。年に数回は、遠方への外出も企画している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	年数回のショッピングでは、一人一人にお金をお渡しして好きな物を買って頂いている。又日常訴えがあれば、その都度近所まで一緒に買い物へ出かけている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は利用者様の希望でいつでも掛けられるようにしてある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂で「そば作り」を行ったり、又居間にはゆっくり出来るソファを置いたり、畳の間を設けたりしている。	食事を楽しむ食堂、みんなでくつろぐリビング、洗濯物たたみをする畳の間など、入居者それぞれに思い思いに過ごせる場所がつけられている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間を広く取り、ソファでくつろぎながらテレビを見たり、友達同士会話が出来るよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた装飾品を飾ったり、家具・こたつなど持ち込んで、自宅同様くつろげるよう工夫している。	入居者が自宅で使用していたタンスやコタツといった家具類や小物類、および写真などが持ち込まれており、本人が居心地よく過ごせる空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム全体がバリアフリーで廊下に手すりを付け、スムーズにトイレ・ホール・食堂へ移動できるよう工夫している。		

2 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム南松園

作成日 平成23年1月14日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	26	入居者及び家族並びに職員が、介護計画を十分共有できていなかった。	介護計画やモニタリングを実施する際は、入居者や家族、関係スタッフを集め十分に意見交換を行い、本人や家族にとって安心してより良い生活を提供できるようにする。	関係者がサービス担当者会議に全員参加できるよう連絡調整を密に行い、介護計画原案を基に話し合いができるよう取り組む。	その都度
2		利用者個人の要望や希望に沿った取り組みについて、十分に満足できるサービスを提供できなかった。	利用者の要望や希望を支援し、満足して頂ける暮らしを目指す。	①複数の職員で利用者の要望、希望を十分に引き出し、その取り組みに向けて職員会議で支援する方法を話し合う。 ②定期的に実行した支援方法を評価するため、利用者の満足度を調査する。	6か月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。